

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

事業所番号	2570100509
法人名	医療法人 湖青会
事業所名	グループホーム南志賀の里
訪問調査日	平成 20年 2 月 29日
評価確定日	平成 20年 3 月 17日
評価機関名	ナルク滋賀福祉調査センター

○項目番号について
 外部評価は30項目です。
 「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。
 「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。
 番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法
 [取り組みの事実]
 ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。
 [取り組みを期待したい項目]
 確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。
 [取り組みを期待したい内容]
 「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明
 家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
 家族 = 家族に限定しています。
 運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
 職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
 チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月17日

【評価実施概要】

事業所番号	2570100509
法人名	医療法人 湖青会
事業所名	高齢者グループホーム南志賀の里
所在地	滋賀県大津市南志賀三丁目1番18号 (電話)077-522-0030
評価機関名	ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店2階
訪問調査日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(20年 2月 9 日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	昭和・ <input checked="" type="checkbox"/> 平成	13年3月24日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	18 人	常勤 11 人, 非常勤 7 人, 常勤換算 15 人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2 階建て	1 階 ~	2 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	14,160 円	
敷 金	有(円) <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(円) 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有/無	
食材料費	朝食	350 円	昼食	550 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(2月9日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	5 名	要介護2	1 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 湖青会 青木医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

JR唐崎駅に程近い住宅地の中に建つこのホームは前側には農地が広がり明るい陽射しに恵まれている。バリアフリーの2階建ての建物は明るく広いスペースを持ち、壁には利用者の作品を飾っている。また雑壇なども飾り家庭的な雰囲気である。それぞれの階に1ユニットが配されている。同じ施設内にデイサービスの施設もありそこの交流も、盛んに行ない利用者は大いに楽しんでいる。医療面では、経営母体の医療法人および訪問看護ステーションと常時連絡が取れており、利用者・家族に安心感を与えている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回課題となった理念とその表現方法は改められていない。施設管理者の交代から日が浅いが、外部との接触については、幼稚園児との交流が始まり、地域との関係も結ばれてきており、進展しつつある。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は新任の管理者のもと職員全員が参加し作成した。自己評価、外部評価の意義は全員よく理解しており、評価で浮かび上がった問題点に対し積極的に取り組もうとしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度の運営推進会議では、ホームの報告のみに留まらず種々の問題あるいは行事等についても協議し協力を得ている。行政との積極的な取り組みに運営推進会議の力を借り情報の入手や支援の拡大に努めてほしい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪頻度を高めてもらうよう努力をしつつ、来訪時には意見・要望を聴取して、対応に努めている。苦情処理箱はあるが、あまり利用されていない。家族が、事業所側に苦情なり要望を述べる事が出来るよう家族会の結成を促して欲しい。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	檜の木という地域ボランティアの支援は、年間行事にも生かされ素晴らしいが、そのグループのみに依存せず事業所からも地域住民や各施設への働きかけをし、協働してホームの質の高いケアを更に期待したい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	作成当初の理念を継続している。	○	地域密着サービスと言う介護保険の理念を活かした新しいホームの理念見直しを全員で取組まれることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	所内の数カ所に掲示しており理念を共有しようという姿勢がうかがえる。理念の唱和等は行っていないが会議等で話し合っておりまた理念に関するレポートを提出させるなどして理念の浸透をはかっている。物事の判断は理念に沿って行い実践している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入会している。地域との交流を深める為に学区の文化祭に参加し、認知症や権利擁護関係のパンフレットなどを配布し理解と協力を求めている。私立幼稚園児が、施設の畑の芋ほりに参加し、それを機縁にクリスマスには、ホームに来て歌ってくれるなど交流が行われている。		今後餅つき、田植え、芋ほり等の活動を通して子供たちとの交流の幅を広げて行ってほしい。地域の歴史を学ぶ集いへ参加の計画もあるようなのでこれらを通じて積極的に地域や子供達との付き合いを更に進めるよう期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が参加して作成している。運営者、管理者、職員とも自己評価及び外部評価の意義はよく理解しており今後の課題に生かそうとしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2か月に1度の割合で開催している。構成メンバーは包括支援センター職員1名、地域住民代表1名、入居者家族代表2名、管理者及び職員3名である。会議は施設の報告にとどまらず推進会議のメンバーの協力及び助言を受けている。		地域との交流を促進するために、運営推進会議のメンバーの更なる協力が得られるよう努力してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の窓口とは、運営推進会議での参加以外は、書類提出程度の通常の関係に留まっている。		運営推進会議のメンバーの協力を得て行政の窓口と積極的にかかわりサービスの向上に向け努力されることを期待する。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族への報告は月1回発行のホーム便りを郵送、また家族来訪時に健康状態や生活状態を報告し確認してもらっている。金銭管理については報告されていない。		金銭管理については立て替え金制度を取り入れ月次の諸費の請求書に添付するなどの方法を検討されることを希望する。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来訪時には、出来るだけ話し合う機会を持って意見や要望の聴取に努めている。家族会は組織されていない。投書箱はあるが利用は少ない。		家族の意見を聞くためにも、また家族への協力を依頼するためにも早急に家族会を発足させられるよう期待する。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	設立以降 管理者の交代3回、計画作成担当者の交代7回、常勤職員の交代8回にのぼっている。理由は同一法人内の異動及び退職である。	○	管理者職員の異動を少なく留めるよう運営者の理解と協力を要望したい。また、やむおえぬ事情で異動を行う場合利用者の動揺を最小限に抑えるような手だてを日ごろから充分話し合っ対策を講じられるよう強く希望する。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に関する情報は運営者から提供され各人の希望により参加することが出来る。費用は事業所が負担している。また同一法人内のケアセンターで行われる研修にも参加している。研修参加者は全体会議で発表を行って研修を共有している。年間を通じた研修計画はない。		各人の各段階の年間研修計画を作成して職員のレベルアップをはかりより質の高い介護技術の習得に取り組まれるよう期待する。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は行われていない。同一法人内の他のグループホームとの交流のみである。	○	同業者との交流を通して介護技術の向上、サービスの質の向上に努められることを期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入所制度を用意している。入所に当たっては本人の状態や家族の話にもとづき他の利用者との関係も考慮に入れながら馴染めるように努めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として尊敬して生活している。利用者の方からいろいろなことを教えてもらえるので感謝をしている。(例えば梅干しの漬け方など)		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の方々の話や日々の生活の中の状態から個々の希望を把握するようにしている。高齢化に伴って自己の意志表現が困難な場合は本人の状態を考慮し検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は家族、利用者の話し合いをもとに利用者のそれまでのライフスタイルを尊重し関係者とも話し合いながら作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。期間にかかわらず変化が起きた場合は職員、関係者が参加し日々の介護日誌や毎月のカンファレンスをもとに家族とともに介護計画の見直しや調整を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携加算制度は導入済みである。事業所は関連施設やボランティアの協力も得ながら家族や利用者の希望、要望(図書館や個別の外出など)に対し柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時ほとんどの家族が施設の協力医療機関の受診を希望している。認知症の治療には、瀬田川病院、成人病センター、琵琶湖病院の協力を得ている。かかりつけ医を希望する利用者には、柔軟に支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に重度化や終末期のことについて本人家族とも話し合い同意書もえている。またこれらの取り組みについては管理者、職員共に勉強し、過去の事例を振り返る取り組みもおこなっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーを損なうような言動は見られない。個人記録の保管は事務所の棚に立ち並べてある状態で誰でも容易に見ることができる。	○	常時使用する書類以外については、少なくとも鍵のかかるロッカー等に保管して内部、外部の者に容易に見られないように配慮してほしい。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各人がそれぞれの意向で思い思いに生活している。意思表示の困難な人にはその人のその日の体調や気分を考慮して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は併設施設厨房での一括調理で対応している。月に1回を目標に、昼食作りやおやつ作りで利用者の好みを聞きながら、皆で調理をする機会を設けている。		食事の用意は、利用者にとって基本的な行動の一つなので、出来れば毎日1品でも施設内で調理できるようにし利用者の参加できる環境を作ってもらいたい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	デイ・サービスとの共用関係もあり午後からの利用となっている。衣服を脱ぐことに恐怖感のある人や入浴を嫌がる人にはタイミングを見計らって声をかけ入浴させている。入浴回数は平均的に週2回程度である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割を押し付けるのではなくその人の自主性を尊重しながら仕事をしてもらっている。またボランティアの協力を得て畑で野菜作りも楽しんでいる。また、図書館へ行きたい利用者は2週間に1度程度の割合で連れて行ってもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の散歩等は施設の周辺の事情(歩道設備や公園などが無い)もあり行っていない。冬季は困難だが、洗濯物干しや戸外でおやつを食べたり日光浴をしている。条件の整ったところまで車で行き、そこで散策を楽しめる計画を立てている。	○	地域との関係作りが進む中で、希望する方には散歩が楽しめるよう取り組んでほしい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関の鍵は日中施錠していない。すべての職員は鍵をかけないケアの意味をよく理解し実践している。		危険防止の観点からも近隣の理解と協力が必要であるのでこちらから出向いて協力方を依頼するよう希望したい。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署立ち合いで年1回避難訓練を実施している。またボランティアグループおよび大家さんへの連絡網はある。		2階からの避難には外に非常階段があるが高齢の利用者には利用困難かと思われるので別方法の検討あるいは階段の改善を希望する。また災害時の食料及び飲料水の確保も希望する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の立てた献立に基づき、併設施設での一括調理を受けているが、摂取方法については刻み食や、流動食、水分のゼリー化など各々の身体状態に応じた工夫をして支援している。食事量及び水分摂取量は管理し記録している。		利用者の水分摂取が困難になってきた場合の対応を、職員全員が認識するよう希望する。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	バリアフリーの玄関や共用の空間は明るく清潔である。季節を表す雛壇が飾られ、壁には利用者の書いた絵や張り絵、それに写真が飾られ自宅にいるような雰囲気をつくっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人の個室は清潔で利用者なじみの調度品が置かれている。身体機能に合ったベットであったり畳部屋であったり一人一人の利用者に心のこもった工夫が見られた。		